

Y20b 大阪市立科学館の天文展示の25年

渡部義弥（大阪市立科学館, 中之島科学研究所）, ほか大阪市立科学館天文担当学芸員

大阪市立科学館は3000平米の常設展示場をもつ。これは国内の理工系の博物館では大規模なものであり年間35万人の観覧者がある。館のテーマは「宇宙とエネルギー」であり、開館以来25年間、天文分野の展示を常に発案、展開してきた。その中には3次に渡る大規模改装も含まれる。ただし、天文分野の展示は、博物館で魅力あるものにするのが難しい。まず、博物館を特徴づける実物資料が隕石などをのぞき乏しい。また、理工系の博物館の魅力である実験装置も限界がある。コンピュータをつかった展示は故障が多くすぐに陳腐化する。写真パネルや映像もすぐに古びてしまう。なによりキレイという感想だけで終わり展示目的が果たされない危険性がある。他分野の展示に比べ、魅力的にするのが難しいのが実情である。これらを乗り越えるために、資料をいじって理解をふかめるハンズオン展示の試み、観測機器そのものの収集と展示、実物資料を天文的な位置づけしたもの、一枚の写真ではなく組み合わせパネルでの表示、オンラインネットワーク展示などを行ってきた。これら25年の取り組みを紹介する。